

令和3年8月1日

エンジニアリング協会 関係者の皆様へ

一般財団法人 エンジニアリング協会
専務理事

前野 陽一

6月半ばから約1か月間続いた梅雨が明けた（関東地方の話です。）と思ったら、毎日猛烈な暑さが続いています。今年は、昨年と同様、マスク着用が推奨されており、新型コロナウイルス感染だけでなく、熱中症にも注意をしなければならぬ状況ですが、皆様お元気にお過ごしでしょうか。

6月末に、千代田化工建設株式会社 代表取締役社長の山東理二様が理事長に就任され、7月は、新理事長就任関連の行事が続きました。

まず、7月1日（木）には、普段お世話になっている報道関係者の方々との懇談会を実施しました。例年であれば、記者の皆様には、当協会にお越しいただくのですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年はオンラインによる懇談会といたしました。山東理事長は、今後日本がカーボンニュートラルやDXを進めていくにあたって、エンジニアリング業界の果たすべき役割は、ますます大きくなる、といったお話をされ、記者の皆様からは、エンジニアリング業界の課題やエンジニアリング協会の重点事業などについて、ご質問がありました。山東理事長の記者懇談会での発言については、多くの新聞、業界誌に取り上げられました。

また、山東理事長の新任のご挨拶のため、関係省庁、関係機関をご訪問しました。具体的には、経済産業省 藤木製造産業局長及び保坂資源エネルギー庁長官、（独）日本貿易振興機構 佐々木理事長、（株）国際協力銀行 前田総裁、（独）石油天然ガス・金属鉱物資源機構 細野理事長、（株）日本貿易保険 黒田社長、和田副社長、寺村常務取締役及び西野取締役、並びに（国立研究開発法人）新エネルギー・産業技術総合開発機構 石塚理事長、及川副理事長及び小林理事にお会いしました。公務ご多忙のところ、関係省庁や政府関係機関の幹部の皆様にお会いできたのは、良かったと思います。今回スケジュールが合わず、お会いできなかった方々に関しても、ご挨拶に伺うようにしたいと思っております。

他方、7月12日（月）に予定していたエンジニアリング功労者賞・奨励特別賞の表彰式に関しては、東京都に緊急事態宣言が発出されたため、中止とせざるを得ませんでした。2年連続で表彰式が執り行えなかったこととなりますが、次回こそ開催したいと思っております。

以下、7月の主な活動についてご報告申し上げます。

[主要な活動内容]

1 講演会等の開催

7月は、3件の講演会及び安全法規に関するミニ講演会を実施いたしました。いずれも、お忙しい中、多数の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございます。

8月は、多くの皆様が夏休みを取られるため、例年に倣い、講演会は行いません。

なお、9月には、Zoom Web 配信による講演会を実施する予定です。逐次参加募集を行う予定ですので、皆様のご参加をお待ちしております。

2 (一財) 海外投融資情報財団 新旧専務理事 ご来訪

当協会の賛助会員であり、北九州市における講演会を当協会と共催で実施している(一財)海外投融資情報財団の日塔 前専務理事と、新任の長田専務理事が、7月7日(水)に、当協会をご来訪いただきました。日塔様は、(株)国際協力銀行の産業ファイナンス部門中堅・中小企業ファイナンス室長に就任されたとのことでした。

3 (一社) 日本商事仲裁協会 板東理事長 ご来訪

7月16日(金)に、(一社)日本商事仲裁協会の板東理事長が、当協会にご来訪されました。板東理事長は、現在のポストに就く前は、(株)日本貿易保険の社長をなさっておられました。

最近の日本経済を取り巻く環境などについて、忌憚ないお話をさせていただきました。

4 第4回 エンジニアリングシンポジウム 2021 実行委員会の開催

7月20日(火)に、第4回 エンジニアリングシンポジウム 2021 実行委員会を開催し、10月15日(金)に、日本教育会館で開催予定のシンポジウムの内容を審議いただきました。その結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、座席の間隔を広くとるとともに、シンポジウム終了後のパーティは行わないなど、実施方法を決定いただきました。

5 会員企業トップインタビュー及び地方公共団体トップインタビュー

今回のレターには、6月に行ったキャディ株式会社 代表取締役 加藤勇志郎様と栃木県知事 福田富一様のインタビューを付けております。加藤様は、エンジニアリング企業など製造業の調達の在り方、福田様には、栃木県の知られざる魅力を熱く語っていただいております。是非ご一読いただければ幸いです。

6 その他

7月23日（金）から、東京オリンピック大会が開催されています。新型コロナウイルス禍の中、様々な議論がなされていますが、私としては、大会運営が無事になされ、日本選手を始め各国のアスリートが活躍することを祈っております。

ところで、私はジョギングを趣味としていることから、陸上競技、特にマラソンに関心があります。とにかく私が走る2倍以上の速度（時速20km以上）で、42.195kmを走るということが、「人間ワザではない」と実感できます。シドニーオリンピックの金メダリストである高橋尚子選手が、「毎日最低40km、多い日は80km走っているのだから、本番はあまり長い距離を走るとは思わなかった」とおっしゃっていました。私自身、今かなり頑張っているのですが、それでも、平均すれば毎日9～10km程度です。オリンピックに出場する選手がいかにかっこいいか、ということを実感しながら、トボトボと走っています。

[第6回]



キャディ株式会社

代表取締役 **加藤 勇志郎** 氏



製造業の収益アップの鍵 「調達力」の向上を支援する

キャディ株式会社は、「モノづくり産業のポテンシャルの解放」をミッションに掲げ、2017年に加藤勇志郎様が創設された新興企業であり、現在も急成長を続けています。日本の製造業が本来持っている力を最大限に発揮するため、従来の常識にとらわれない「新たな仕組み」づくりを目指す加藤様に、お話を伺いました。

調達の コストダウンの難しさ

— 御社のWEBなどを拝見すると、日本の製造業の収益をアップさせるためには、部品調達にかかるコストを削減する必要がある、とおっしゃっています。まず、この点をご説明いただけないでしょうか。

加藤 日本の製造業の国内総生産高

は約180兆円ですが、その中で調達に係るコストは約120兆円です。したがって、製造業の収益をアップさせるためには、「調達部門」のコストカットや合理化が不可欠なのですが、今まで、特筆すべきイノベーションは起こっていません。

— 日本の製造業は、設計業務にCAD/CAEを導入し、製造部門ではロボット導入や自動化を行い、更に、

最近ではAI導入による販売システムの合理化を図ってきていると思うのですが、なぜ調達部門は手付かずなのでしょう。

加藤 全ての製造業が、調達におけるコストカットを実現できていないというわけではありません。例えば、日本の主要産業である自動車産業は、調達担当者が、一品一品の部品のコスト構造を全て把握しています。ただし、

これは、自動車産業という大量生産型の製造業だから可能なことなのです。

— 例えば、当協会の主要会員企業であるエンジニアリング企業にとっては、なかなか難しいということでしょうか。

加藤 おっしゃるとおりです。日本の製造業の約1/3は、多品種少量生産の業界です。こうした業界は、製造する製品に合わせて、多種多様な少量の部品を、数千種類、数万種類調達しなければならないわけです。調達の担当者がいくら頑張ってみても、部品をコストカットできる余地は少なく、個々の部品の調達に時間をかけすぎると、かえってコストアップにつながりかねません。また、エンジニアリング業のような受注産業の場合、今月は大量に部品を調達しても、来月は全く調達しないかもしれない。こうなると、部品を納入するサプライヤーは、生産計画を立てづらく、コストカットができない、ということになります。

更に、エンジニアリング企業がつくるプラントは、国内外に散らばっていて、その意味でも調達がすごく難しいと思います。エンジニアリング企業としては、購買力が何千億円あったとしても、一か所のサイト当たりでは、購買力が大きいとは言えません。そこで、当社が、他社の部品と合わせて調達を行うことにより、コストカットを実現できるのではないかと、思っています。

キャディ株式会社の役割

— なるほど。キャディ株式会社が果たせる役割は大きい、ということですね。

加藤 そのとおりです。我々にお任せいただければ、数千種類、数万種

類もある部品の「適正な調達コスト」と「最適なサプライヤー」をご提示することによって、調達部門の負担を大幅に削減することができます。例えば、多くの企業では、部品を調達する際に相見積もりを取られることがあると思います。しかし、もし部品のコストに確信があれば、相見積もりは必要ありません。部品の原価の中身が分かっていないから、相見積もりを取らざるを得ないのです。調達力のあるエクセレント企業は、部品の原価の中身を熟知しているため、相見積もりを取りません。相見積もりを行えば、必ず失注する会社がいるわけで、失注のコストは、必ずどこかに載せてくることとなります。日本の製造業全体で見たと際に、これは大変な無駄です。

— キャディ株式会社は、多種多様な部品の製造原価（コスト）を正確に知り、かつ、その部品の製造に適したサプライヤーを紹介できるということですが、なぜそのようなことが可能なのでしょうか。

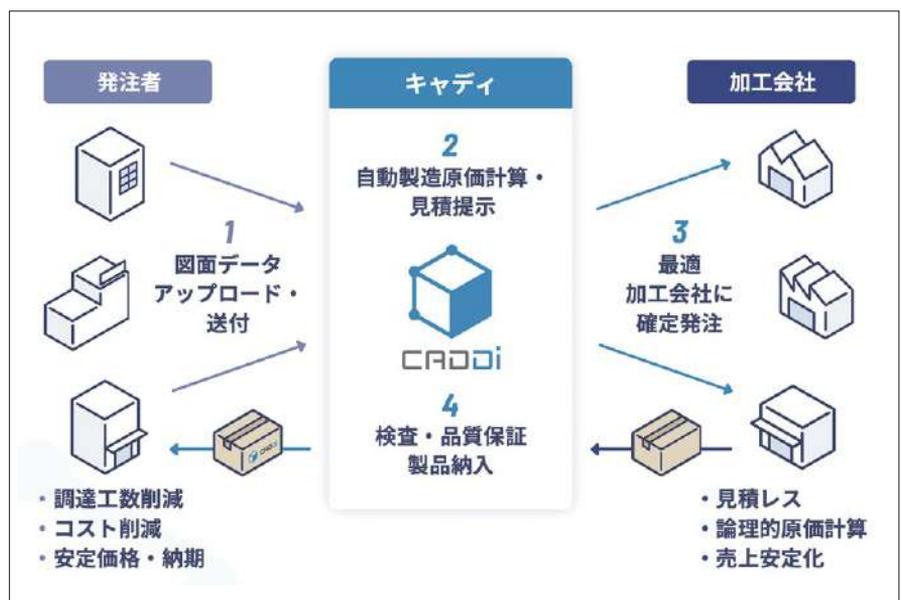
加藤 当社は、過去のデータの蓄積とIT技術の活用から、様々な装置やプラントに必要な全ての部品について、適正な製造原価をご提示できる

のです。仮にお客様から、「なぜこの部品は、この価格になるのか」と問われれば、そのコスト構造について、当社の保有するデータを基にご説明できます。また、当社は、板金加工、金属・切削加工などを得意とする「パートナー加工工場」制度を有しています。当社のパートナー工場となるためには、品質・納期・価格・得意な加工・キャパシティ・経営方針などの厳正な審査に合格する必要があります。その上で、我々は、お客様からいただいた案件に最も適合するサプライヤーをご紹介しますこととなります。

調達部門の役割

— キャディ株式会社にお願ひすれば、調達業務が大幅に合理化できる、ということは分かりました。しかし、そうなると、調達部門は必要なくなってしまうのでしょうか。

加藤 そのようなことはありません。当社に仕事をご依頼いただければ、形式的に相見積もりを取る、といった非生産的な仕事から、調達部門の皆様は解放されます。しかし、調達部門



CADDi ビジネスモデル概念図

の一番の価値は、設計データと実際の製品と価格の三要素を、束ねて見ることにあります。設計の人は設計しか分からない、製造は製造された製品しか分からず、価格の情報はありません。これらの要素を全て俯瞰して見るのが調達の仕事で、根本的にコストを下げるアプローチが取れるわけです。例えば、設計をこのように変更したら、製造のコストが下がるとか、製品製造の見通しがついている場合には、まとめて部品を購入した方がコストが下がる、といったアドバイスができるのです。競争力のある製造業は調達部門が強い、と感じています。

調達業務のイノベーションこそ収益の源泉

— 調達業務は、製造業の要ということなのですね。

加藤 日本に限らず、世界の製造業で収益力の高い会社のトップは、調達部門出身ということが多くと思います。なぜなら、調達のコストをカットすることが、営業利益をアップする近道だからです。例えば売上げ100億円、営業利益率3%の企業を想定してみましょう。営業利益は3億円となります。営業利益を2倍の6億円にしようとした場合、売上げ増で達成しようとするれば、売上げを200億円にしなければなりません。これはかなり高いハードルと言えます。他方、調達コストは、通常売上げの約60%であるため、60億円となります。これを5%カットすれば3億円が稼げ、営業利益6億円を達成できるのです。

— 売上げを2倍にするより、調達コストを5%カットすることの方が容易であるのは明らかですね。

加藤 多くの企業で、調達業務の重要性がより認識されていくことを願っています。何千、何万とある調達部品の

うち、調達部門が時間をかけて原価計算をするべき高コストな主要部品は、せいぜい全体の20~30%程度だと思います。それ以外の低コスト多数部品については、当社にお任せいただくことが、調達業務合理化の最善手だと思っています。

キャディ株式会社を創業した動機

— ここで、加藤様ご自身のお話をお聞かせいただきたいと思います。加藤様は、東京大学をご卒業後、2014年に外資系コンサルティング会社に就職された後、2017年にキャディ株式会社を創業されました。多くの学生が、日本の大企業での就職を目指していた40年前（私が就職活動をしていた頃）には、想像がつかなかったですね。

加藤 今でも、大企業に就職を希望する学生は多いと思います。ただし、昔と違って、起業家のロールモデルが数多くいる、ということが学生の意識を変えていると思います。野茂投手が大リーグで成功してから、多くの日本人選手が大リーグに挑戦したのと同じことだと思います。私自身は、学生時代から起業しており、外資系コンサルティング会社での経験を生かして、新たな事業を起こしたいと考えていました。



— 私は今まで何人かの起業家の方にお会いしましたが、多くはIT系や流通関係の事業をなさっていました。製造業に関連した起業をされた方にお会いしたのは、加藤様が初めてです。

加藤 私が製造業に着目したのは、日本の企業の中で、世界に通用するのは製造業だからです。世界のブランドランキング・トップ100社の中に、日本の製造業は6社ランクインしています。製造業以外では、日本企業は1社しか入っていません。これは、世界各国にはない特徴です。他方、製造業は必ずしも国内では大きな評価を得ていない。この差が大変

加藤 勇志郎 (かとう ゆうしろう)

1991年 神奈川県生まれ
2014年 3月 東京大学経済学部卒業
同年 4月 マッキンゼー・アンド・カンパニー入社
2016年 6月 同社マネージャーに就任
2017年11月 キャディ株式会社創業



面白いと思ったのです。日本だけでなく、世界的に見ても、「製造業の調達業務」はイノベーションが進んでおらず、ここに大きな可能性があるのではないか、と思いました。

— 素晴らしいお考えです。ところで、「キャディ株式会社」の名前の由来は何ですか。

加藤 「CADからダイレクトに発注する」という意味と、ゴルフになぞらえて、「製造業のプレイヤーを支えるインフラになりたい」という想いを兼ねています。

— 深い意味があるんですね。ところで、御社の業務を考えると、かなり優秀な人材を必要とすると思うのですが、どのように採用されていたのでしょうか。

加藤 元々は二人で始めましたが、今は200人強くらいの従業員数となりました。最近、テレビや雑誌で取り上げていただく機会が増えたので、リクルートも行いやすくなりました。

そもそも給与のために働く人は、あまり当社には来ないです。給与のためだけなら、少なくとも短期的にはもっと条件のいいところもあります。未だ誰もなし得たことのない、日本の最大産業の構造を変革する大きな挑戦に、人生の貴重な時間を使っても「チャレンジしたい」と考える人が集まってきてくれている、といった感じです。

座右の銘は「至誠を貫く」

— 最後に、加藤様の「座右の銘」をお聞かせください。

加藤 大事にしている言葉は、キャディ株式会社4つの基本的価値観(value)の中にもある「至誠を貫く」というものです。現状を守ることや救うことは、至誠ではありません。サプライヤーである「パートナー工場」の本質的な強みを見出し、更にそれを伸ばしてもらうことこそが、当社が行うサポートだと思っています。

時には厳しいことも言わなければならないと思いますが、その結果、真の意味でのグローバルな競争力のある会社となっただけでなく、私にとって「至誠を貫く」ことになると思っています。

— 本日はありがとうございました。



インタビュー後記

加藤勇志郎様は、大学在学中から起業するなど、チャレンジ精神豊富で、バイタリティに溢れる方です。お話の内容も、論理的で面白く、あっという間にインタビューの時間が過ぎ去ってしまった感じでした。余暇の過ごし方をお伺いしたのですが、「仕事が趣味」といったご様子で、おそらくキャディ株式会社の事業に没頭されていくのだろうな、と感じました。

加藤様がおっしゃったエンジニアリング企業の調達の難しさは、面白い視点だと思いました。是非、皆様には、キャディ株式会社と一度お話をされることをお勧めいたします。

聞き手：当協会専務理事
前野 陽一



会員企業データ

社 名：キャディ株式会社
 事業内容：製造業における受発注プラットフォーム「CADDI」の開発運営
 設 立：2017年11月9日
 所 在 地：東京都台東区蔵前1-4-1
 従業員数：200名
 (2021年2月時点。アルバイト含む)
 ホームページ：https://corp.caddi.jp/



[第1回]



栃木県知事

福田富一氏

「ベリーグッド ローカル とちぎ」へ
ようこそ

栃木県は、関東平野の北部に位置し、首都圏と北日本との結節点となっています。豊かな自然、伝統文化、活力あふれる産業が存在する「住みやすさNo.1」の県なのですが、残念ながら、多くの日本人には、栃木県のすばらしさをご理解いただいていません。今回、宇都宮市に所在する栃木県庁を訪問し、福田富一知事から、栃木県の魅力、県内産業の現状と産業振興の方向性、ご自身が知事を目指されたきっかけと志などについて、じっくりお話を伺いました。

栃木県の魅力 ～県民性～

— 本日は、公務が大変お忙しい中、インタビューに応じていただき、ありがとうございます。はじめに、大変漠然とした質問で恐縮なのですが、福田知事が感じておられる栃木県の魅力とは、どのようなものなのでしょうか。

福田 栃木県の魅力は様々あり、一言で申し上げることは難しいのですが、第一に挙げられる点は、「真面目な県民性」であると思います。他の都道府県と同様、我が県でも、昨年末から本年1月にかけて、新型コロナウイルスの感染者が数多く出ました。このため、1月末から2月にかけて緊急事態宣言が発出され、申し訳ないことながら、飲食店の皆様

方には、時短営業をお願いいたしました。これに対し、99%のお店が県庁の要請に協力してくださいました。その結果、2週間で感染拡大を止めることができました。

— 県庁がお願いしても、なかなか協力していただけない、といった県も数多く見られる中で、それはすごいことですね。



福田 また、先般県内の工場を訪問した際、髪の毛を茶色に染めた若い方が働いておられました。私のような世代の人間からすると、「ちゃんと働いているのかな」と思ったのですが、社長さんや工場長さんにお聞きすると、「去年入ったばかりの社員ですが、仕事ぶりは真面目で、仕事をきっちりこなします」ということでした。

栃木県の魅力 ～交通の便利さ～

— 栃木県民の生真面目さや勤勉性は、企業にとっても魅力でしょうね。

次に挙げるべき栃木県の魅力は、何でしょうか。

福田 巨大マーケットである首都圏との近接性が挙げられると思います。現在でも、東北新幹線を使えば、宇都宮駅から東京駅まで最短48分で行けますが、新幹線のスピードアップが計画されており、更に5分間程度は短縮されるはずです。天気が良ければ、県庁本庁舎から東京スカイツリーや富士山を見ることがもできます。

— 東北新幹線だけでなく、南北には東北自動車道、東西には北関東自動車道が走っており、栃木県の交通の便は大変いいですね。また、両毛地域も、東武伊勢崎線が走っており、簡単に東京に行くことができます。私は、足利市の産業団地を販売していたことがあったのですが、交通の至便性から、あっという間に完売できたことを覚えています。

福田 企業立地についてお話しすると、県内では工場の新設が相次いでいます。経済産業省の工場立地動向調査によれば、2020年の工場立地件数は36件（全国第7位）、立地面

積は92ha（全国第3位）となっています。

— 先ほど、「栃木県産業団地案内」を見させていただいたのですが、分譲済や商談中となっている区画が多く、なかなか進出する土地を探すのも大変だな、と思いました。

福田 県内には、まだまだ企業が進出できる場所が多くあります。栃木県に関心を持たれた企業関係者の皆様には、是非栃木県庁の産業政策課にご相談いただければと思います。

栃木県の魅力 ～バランスの取れた産業構成～

— 栃木県に、数多くの企業が立地しているとすれば、産業も活性化しているということでしょうか。

福田 栃木県の産業構成は、農業、商業、工業のバランスが取れていることが特徴として挙げられます。広大な農地や良質で豊かな水を基に、農業や畜産業が盛んであり、農業産出額は全国第9位です。特に、イチゴの収穫量は、52年連続日本一を誇っています。また、製造業について言えば、大手企業や技術力の高い中小企業が集積しており、製造品出荷額は全国第13位です。多様な産業が集積している結果、県民所得は、全国第3位となっています。

— 栃木県と言えば、観光資源も豊かですね。

福田 栃木県内には、日光国立公園及び尾瀬国立公園があり、自然が豊かで四季折々の変化が繊細です。また、文化遺産としては、世界遺産となっている日光の社寺や、日本遺産となっている足利学校があります。更に、栃木県内には、国宝が17件



足利学校

(工芸品10件、建造物7件)あり、これは、全国第10位です。栃木県より上位にランキングされているのは、昔、都が置かれていた東京都、京都府、奈良県などであり、都が一度も置かれたことのない都道府県としては、かなりの数があると思っています。

多くの日本人は、 栃木県の魅力を知らない

— こうして、栃木県の魅力についてお話を伺っていくと、何故栃木県のすばらしさが、多くの日本人に伝わらないのか、と誤ってしまいます。ある民間調査会社の行う「都道府県魅力度ランキング」では、北関東各県のランキングは、あまり高くありません。その理由を、どのようにお考えですか。

福田 栃木県に観光に来て宿泊される方の数を数えると、東京・神奈川・埼玉・千葉が、全体の6割強、そこに茨城・群馬が入りますと7割強となります。逆に申し上げれば、東北、関西、中国、四国の方々は、栃木県に来られたことがなく、栃木県のことを全くご存じありません。したがって、そういう方々を対象に、「栃木県に魅力を感じますか」とお尋ねしても、ポジティブな回答は得られないこととなります。

— なるほど、「魅力を感じない」というより、「どこに魅力があるかわからない」ということなのですね。

福田 一度栃木県に来られれば、その魅力を感じていただける可能性も高いのです。一つ具体例を申し上げます。7～8年前のことですが、愛媛県八幡浜市の大手和菓子会社が、東北方面での販路拡大も見込んで、関東エリアに工場をつくりたい、

ということで、関東各県を視察されました。当初、栃木県は工場立地候補として考えられていなかったのですが、現場を見てみると、「東京に近い」、「土地の値段が安い」そして何より「水が良質である」ということで、佐野市に工場をおつくりになりました。現在、その工場では、一日数十万個の和菓子がつくられており、更に工場を拡張する計画もある、と聞いております。

栃木県の産業の将来像 ～製造業～

— 栃木県が、既に有数の「モノづくり県」であることはわかりましたが、今後、どのように発展させていくおつもりでしょうか。

福田 栃木県には、現在、自動車産業、航空宇宙産業及び医療機器産業の大手企業が立地しており、これをサポートする技術力の高い中小企業があります。この栃木県の製造業の強みを更に強化することを目的として、2021年3月に、「新とちぎ産業成長戦略」を作りました。この中では、先ほど述べた3つの産業を、本県のものづくりの「戦略3産業」と位置付け、重点的に支援を行うとともに、AI・IoT・ロボット技術、光学技術、環境・新素材技術を「未来3技術」と位置付け、戦略3産業と未

来3産業とかけ合わせることで、新技術、新製品の開発、戦略3産業等への活用の促進を図り、更なるものづくりの発展を目指したいと思っています。その中で、国の進めるカーボンニュートラルも念頭に置いて、産業振興を図って参ります。

AI・IoTに関しては、5月31日に、「とちぎビジネスAIセンター」を開所いたしました。同センターでは、普及啓発、相談支援、人材育成、導入支援、この4本柱で一貫して県内の中小企業等を支援することとしています。個別相談などのきめ細かな支援も行いながら、AIの基礎講座や専門研修講座を開き、企業における人材育成を図って参りたいと思っています。

また、現在、県内企業と大学、研究機関などと連携し、デジタル技術の活用により地域課題の解決を図る「デジタルハブ」を10月開設に向け準備しています。

栃木県の産業の将来像 ～サービス業～

— 経済がサービス産業化する中で、サービス業の振興については、どのようにお考えですか。

福田 AIの活用などにより、多様なサービス業が生まれてきています。この分野は、特に女性が活躍できる職



福田 富一 (ふくだ とみかず)

1953年 栃木県生まれ
1972年 4月 栃木県庁奉職
1979年 3月 日本大学理工学部建築学科卒業
1981年 4月 栃木県庁退職、建築設計・行政書士事務所を開設
1983年 4月 宇都宮市議会議員 初当選
1991年 4月 栃木県議会議員 初当選
1999年 4月 宇都宮市長 初当選
2004年 11月 栃木県知事 初当選
2020年 11月 栃木県知事 5期目当選

種が多いのではないかと考えており、女性の県内定着を促進するためにも、大いに振興していきたいと思っています。例えば、宇都宮市には、文星芸術大学というデザインやデッサンなどを専門に教える大学があります。ちばてつやさんが学長なのですが、この大学がハブとなって、栃木県にアニメーション産業が育たないだろうか、と期待しています。

知事を目指した きっかけと志

—ここで、福田知事ご自身のことをお伺いできればと思います。知事を目指されたきっかけは何だったのでしょうか。

福田 そもそも政治を目指すきっかけは、県庁職員として9年間勤めた中で、栃木県の行政をより良いものにしていくためには、政治家になるしかないと思ったからです。私は、政治家の家系ではなく、労働組合の幹部でもありませんでしたが、私のような普通の人間が、政治家を志してもいいのではないか、と思ったのです。

初めは、市会議員、県会議員として活動しましたが、議員が議場で提言しても、なかなか実現することは難しい。例えば、私は議員時代に、「少人数（30人）学級の実現」を提案しましたが、実現できませんでした。やはり、執行部の長になるしかない、と思い、知事に立候補しました。その結果、全国に先駆けて、「少人数（35人）学級」を実現することができました。

—県庁職員を辞めて、政治家を目指すというのは、かなり思い切った行動だったのではないのでしょうか。

福田 県庁を辞める際の送別会で、「将来知事室に入れるように頑張ります」と言ったところ、冗談を言っていると恐れ、笑われてしまいました。

—最後に、福田知事の人生の指針をお教えてください。

福田 政治家として心がけていることは「先憂後楽」です。この言葉は、政治家の大先輩である元参議院議員の岩崎純三先生にお教えいただきました。実業家であれば、自分の楽しみ



を優先してもかまわないが、政治家は、自分の楽しみは後にして、人様のために骨を折る、人様の問題を解決する、そういうことができなければ、政治家になってはならない、と教わりました。今でも肝に銘じています。

—本日は、大変ありがとうございました。



インタビュー後記

私は、栃木県南東部の真岡市で出生し、小中学校当時は、夏休みのほとんどを真岡市の親戚宅で過ごしていました。そのご縁もあり、経済産業省栃木県人会長を務めさせていただき、何度も福田知事にはお会いしておりました。しかし、今回改めてじっくり福田知事のお話をお伺いし、福田知事に魅了されました。栃木県のことをあまりご存じない皆様には、是非一度栃木県を訪れていただければと思います。

聞き手：当協会専務理事
前野 陽一

栃木県データ

県庁所在地：栃木県宇都宮市埴田1-1-20

人口：1,924,010人
(2021年5月1日現在)

面積：6,408.09㎡

交通：宇都宮—東京／新幹線で最速48分
宇都宮—羽田空港／電車で約1時間30分
宇都宮—成田空港／車で約1時間30分
宇都宮—京浜港／車で約2時間

ランキング：農業産出額全国第9位（令和元年和）
製造品出荷額等全国第12位（平成30年）

URL：<https://www.pref.tochigi.lg.jp/>

世界遺産に登録された「日光の社寺」に代表される優れた歴史文化、四季折々の美しい自然、豊富な温泉、イチゴや和牛、湯波などの多彩な特産物、結城紬や益子焼などの伝

統工芸品、更には各地に根付いている伝統芸能など、魅力的な資源に恵まれ、毎年、県内外からの多くの観光客で賑わう。



とちあいか

